

第4回 学期制検討に関する懇談会（小田原市立小・中学校） 会議概要

- 1 日時 平成30年11月29日（木）15時00分～16時45分
- 2 場所 小田原市生涯学習センターけやき 2階 大会議室
- 3 出席者 石塚 等 堀 賢一郎 栗畑寿一朗 遠藤 清子
初瀬川孝夫 八木 規孝 岩田真由美 中村 栄江
本多 忠幸 寺内 浩司 上村 勝治
大木 富男 益田麻衣子
<教育委員会>
内田 里美 友部 誠人 飯田 義一 川口 博幸
石井美佐子 鈴木 一彦
<事務局>
高田 秀樹 大須賀 剛
- 4 配布資料
- ・次第・レジュメ 名簿
 - ・第4回学期制検討に関する懇談会 開催要項
 - ・第3回懇談会…平成30年10月18日 会議概要
 - ・石塚先生の講話資料
 - ・意見交換 **議題1** のための資料
- ・提供資料
- 資料A 学校の行事予定 久野小学校
酒匂小学校
下中小学校
 - 資料B 空調設備設置に関すること
 - 資料C 学校給食日数に関すること
 - 資料D 成績・評価の配付・通知に関する資料（小学校）
 - 資料E 成績・評価の配付・通知に関する資料（中学校）
 - 資料F 校務支援システムの契約や対応に関する資料
 - 資料G 小学校の通知表等に関する様式
 - 資料H 中学校の通知表等に関する様式
- 5 傍聴者 1名

6 会議内容

1 開会	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会の公開について ・資料の確認 ・日程について
2 内容	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 第3回懇談会の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回懇談会（前回・10月18日）会議概要 </div>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議概要をもって確認とさせていただく。
質問・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(2) 第4回調査部会からの報告</p> <p>② 第3回懇談会における質問等について</p> </div>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回、第5回と意見交換をしていくにあたり、確認しておいた方がよいであろうふたつの質問について、調査部会において意見交換をした。 「小学校では下校時刻が早い日が多い印象がある。もっと調整すれば授業時間が確保できるのではないか。」 「通知表の児童生徒への配付と回収の期間が早いのではないか。」 部会長および調査部会から報告していただく。
部会長（堀）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に授業計画をしている先生から報告していただく。
八木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料Aについて説明。例年、20時間程度の余裕を持たせているが、外国語もあり、年間授業時数1071と2分の1のところ、実施可能時数1073である。ほとんど余裕なく、ぎりぎりの状態で授業を計画している。 9月、10月の行事予定表について説明。無駄のないように会議等の日程を計画している。
岩田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月は成績処理日として、4時間としている日がある。前期、後期の分かれ目で4時間となっている日が多いため、早い下校とを感じる時期である。 資料Dについて説明。10月5日に渡し、9日に回収が多い。通知表を祖父母に見せるため、期間が長くなっている学校がある。
寺内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4時間となっている日の内容・理由について説明。 終業式、始業式、小教研一斉研究日、酒匂中学校区の研究会等がこれにあたる。 また、2校同様授業数確保に苦勞している。ある地域では7時間授業を行うところもあるようだが、児童の負担を考え実施していない。6時間が精一杯である。
部会長（堀）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業数を確保しながらも、研修の機会、成績表の適切な処理のための点検に関わる時間確保のために4時間を設定しているが、最低限にしている。 ・ 通知表は児童が意識しやすい日程で回収日を設けているが、要望があれば柔軟に対応することは可能である。

進行	・現場の教職員からの説明があったが、保護者の立場から意見を聞かせてほしい。
大木	・丁寧に説明してもらい実態がよく分かった。説明を聞いて驚いた。スケジュールを見て時数確保は難しいと感じた。7時間も難しい。前回早く帰る日が多いと発言したが、その対策は休みを少なくするか、夏休みを減らすかになってしまう。
益田	・3分の1、4分の1というように確保するために涙ぐましい努力をしているのが分かる。3連休が休みではない保護者もいるので、通知表の回収はできることなら、保護者への配付から回収までの期間をのばしてほしい。
石井	・研修は法令に基づいて行っている。 直接子どもに関する内容で実施するよう努めるものについて削ることは難しい。市で実施する研修については放課後の時間や長期休業中に設定するなど授業の支障のないように配慮している。
② 議題1と議題2についての課題設定	
事務局	・本日のふたつの議題の設定について提案。 →承認
(3) 新学習指導要領における教育課程のあり方～授業時間数確保の視点から～ 横浜国立大学 教職大学院 教授 石塚 等先生	
石塚	※ 別紙 石塚先生提供資料参照
進行	・質問は意見交換の時間を活用してほしい。
(4) 意見交換 ① 議題1「主として平成23年～現在までの2学期制についての成果、今後の課題」	
事務局	・資料について説明。 議題1という資料は調査部会の意見をまとめたものなので、意見交換の参考にしてほしい。他に、参考となる資料B、C、D、Eの内容について説明。
進行	・資料についてより詳細に補足してほしい。
事務局	・資料D、Eの表の見方について補足。
川口	・資料B、Cについて補足。(資料Bの)空調設備設置については、来年度7月の稼働を目指し、準備をすすめている。(資料Cの)給食実施可能回数について、来年度は天皇陛下のご即位の休日があるため、7月の長期休業前や前後期の切れ目などに充てていく予定である。

進行	<ul style="list-style-type: none"> 資料についての質問も意見交換の中でお願ひしたい。
堀	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の保護者から夏休み前の成績の提示が少ないとの意見が多かった。中学校で定着している教科担当からのコメントなどが小学校ではないため、伝わりにくいのではないか。
栗畑	<ul style="list-style-type: none"> 2学期制に慣れたことが成果である。3学期制に戻す必要性は全くない。3年生に校長面談で話を聞くと、嫌いな教科に英語をあげる生徒が圧倒的に多い。優秀授業実践教員の授業をもってしても苦手と感じる生徒が多い。これは、楽しく外国語活動を経験してきた子どもたちが、評価をしなければいけない英語の授業になったときに苦手意識を感じているのではないか。課題は、物理的な時間を生み出すことではなく、授業の質を高めるなど本質的な効果を生み出していくことが大事だと考える。
遠藤	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談で学習に関して保護者に伝えられている。また、児童が自分自身を振り返る活動をした上で三者面談を行い、長期休業中の生活の課題を確認している。3学期ではやらなかったことを2学期制になってから各校で実施している。
初瀬川	<ul style="list-style-type: none"> 3学期制を知っている職員と知らない若い職員が混在しており、様々な考えがあるが、これまで3学期制の良さを取り入れながら工夫しているので、現状を維持していきたい。そのような中で、前期、後期の切り替えに違和感を覚える職員が多く、再考の余地はある。
八木	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の通知表がないかわりに、教育相談では口頭でそれ以上の情報として学習の成果等を伝えてきたが、紙ベースで手元に渡されるものがないため、保護者の印象は異なるようだ。 長期休業の前日まできっちり授業が入っている。授業の中身という視点からも2学期制の方が充実している。
岩田	<ul style="list-style-type: none"> 児童も職員も2学期制に慣れている。7月に成績を出すとそれに伴い、準備が早くなるため、先生方が子どもとじっくり過ごす時間がとれなくなる。評価については、教育相談で十分に伝えていたと思っていたが保護者の捉えとずれていたようだ。夏休みに入る前後の面談をより充実していくことが課題である。
中村	<ul style="list-style-type: none"> 2学期制があまりにも普通になっている。長期休業前の成績について中学校は何らかの形で保護者に示すことができている。教科担当からのコメントも伝えている。現状が生徒、保護者も一番安心できると思う。子どもたちと向き合う時間をもつことについては、学期制に関わらず課題であると捉えている。
本多	<ul style="list-style-type: none"> 2学期制になったとき、何年かかけて行事の精選をしてきた。以前実施していた球技大会なども少なくなり、長期休業に入る直前まで授業を行っているのも現状である。行事を通しての1年間のリズムが生徒にも定着している。成績のつけ方等についても、どの時期にどの内容を資料していくかを伝えるようにしている。

	2学期制を継続していくことが落ち着いた生活につながる。
寺内	<ul style="list-style-type: none"> ・時間数の確保と子どもを見取る期間が長くなったことが成果である。3者面談を行うことにより、様々な面の児童の課題を三者での約束ができています。ただし、調査結果からも、保護者への成績の説明が課題であると感じている。この点については検討が必要である。
上村	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に所見等の作業ができるようになったのは、7月までの授業の準備などに専念できる環境ができた。3学期制のときの夏季休業前はかなり忙しかったのではないかと感じる。この効果は業務改善という点でも大きかった。
大木	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもはあまり学期を意識していない。成績表をもらうことによる意識の方が強い。夏休み前の面談は保護者にとってもありがたい。授業数確保は理解できるが、行事を精選しすぎて、学校が勉強するだけの場になってほしくない。
益田	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の時間しか見ていないが、勉強が苦手な子どもにとって苦しくなる。また、先生たちの負担を増やすことは難しいと感じた。栗畑校長の話のように、学習を楽しむ時間も大切。学校行事を見直すことも理解できるが、勉強の苦手な子どもにとって効果のある活動でもあるので、工夫してほしい。先生が忙しく子どもに影響をあたえるようであれば、人を増やしてほしい。先生でなくてもできる仕事は人的配置をしてほしい。
石塚	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合いの学校関係者に話を聞いた。 ・今回の新学習指導要領移行にあたって、(聞いたところ)全部、学期制はそのままとしている。他の工夫で時数を確保。学期制を変えることに労力、時間を割くことは学校の負担となる。 ・7時間授業を行っているところが(神奈川県内で)中地区にあったが、子どものリズムを考え、6時間の後に短時間の活動を行ったという例がある。 ・学校行事については、週5日制でかなりスリム化されている。学校行事の見直しで授業時間数に充当された例はほとんどない。 ・長期休業日の前の丁寧な対応が保護者の安心につながる。
<p>② 議題2「実態調査における<u>保護者の意見*</u>をどのように反映させていくか」</p> <p style="text-align: center;"><u>* 夏季休業前に評価や成績がほしい、知りたい</u></p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の関係もありこの後の意見交換については小学校のみに絞らせていただく。 ・資料F, G, Hについて説明。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・終了時刻のこともあるので、小学校長会代表・教頭会代表、担任の立場から寺内総括教諭、保護者の二人、石塚先生に話を伺いたい。
堀	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の通知表はとても細かいものだが、担任の先生方はこれを作成している。中学校で配付している連絡票などを参考にしながら、平成32年度に向けて見やすい通知表という視点で見直しや検討が必要になってくると思う。

遠藤	<ul style="list-style-type: none"> ・明日が教頭会のため、全体としての意見ではないが、各担任は評価したことをもとに面談で伝えている。それをその時点で数値として示していくことは自分の経験上、難しいと考える。どのような形にしていくかという点が課題となる。
寺内	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳を含め、特に高学年は文章で評価する項目が増えた。夏季休業前に何かしらものがほしいという要望を受け、保護者に数値を示すことは可能ではあるが、新たな負担になるため、様式については簡略されたものにしてほしい。
大木	<ul style="list-style-type: none"> ・(現状の小学校通知表サンプルを見て) 細かく評価しているのが分かる。3回評価するのはとても負担になると感じた。面談で伝えてもらえれば十分ではないかと思う。
益田	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりにも細かくて子どもは〇がいくつあるのかくらいの視点しかない。小学校の担任が細かいものを出すのは不可能なので、教育相談のときに学習の様子を伝えてもらえればよいと思う。先生方にその対応を丁寧にしてもらえればよい。
石塚	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談、三者面談というような取組がされているのはよい。夏休み前に何らかのものを見せた方がいいのかなという程度。ここまでの通知表を夏休み前に出すと3学期制と同じになってしまう。負担にならないように工夫して進めてほしい。保護者の要望に対して、口頭で丁寧に伝えるのか、簡単な様式のもの配るのか等を今後検討していけるとよい。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・今日、出席の保護者代表からは面談等で丁寧に説明してくれればよいとの意見をいただいたが、やはりアンケートを見ると何らかの形で休業中の方向性を示すようなものが必要なのではないかと思う。 ・保護者を経験した立場での私見になるが、とても丁寧に所見を書いてくださる先生の苦労をありがたく思っていた。そのような丁寧な所見は年度末だけでもよいのではと思う。保護者が安心できるような、簡単なもので十分だと思うが。
(5) 今後について	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・①日程、②第5回懇談内容、③教育委員会定例会、市議会への経過報告について
質問・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・なし
3 閉会 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様は組織の代表として参加されているので、組織における情報の共有を引き続きお願いしたい。